



ロンドン大学 ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンを訪問しました（2022/11/8）

テーマ：国際連携、災害科学

場所：ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン

11月18日（金）、東北大学の植木俊哉理事・副学長と北村美和子特任研究員・助教（国際研究推進オフィス）が、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）を訪問し、東北大学とUCLの今後の研究協力や、頻発する災害に対する教育協力について会議を行いました。今回の訪問では、東北大学とUCLの今後の具体的な研究協力や、頻発する災害に対する国際的・包括的なアプローチを目指した教育連携について協議するとともに、UCLで行われている授業へ参加しました。東北大学の植木理事・副学長、サッパシー・アナワット准教授（津波工学研究分野）（オンライン参加）、北村特任研究員・助教は、UCLのInstitute for Risk and Disaster Reduction（UCL IRDR）を訪問し、UCLの国際連携担当者や学術スタッフとのミーティングを実施しました。UCL IRDRの新所長であるJoanna Faure Walker教授は、UCL IRDRと当研究所の10年にわたる協力関係、特にサッパシー准教授の努力によって継続している共同研究、そして現在進行中の早期避難の研究についての概要を説明しました。この早期警報に関する研究には、Joanna Faure Walker教授、サッパシー准教授、北村特任研究員・助教が参加しています。また、防災研究の国際的権威であるアレキサンダー教授からは、東北大学とUCLのマッチングファンドの成果や、福島県での共同研究・調査の2023年度の展開について具体的な話がありました。最後にPunam Yadav准教授（UCL IRDR Centre for Gender and Disaster Research 副センター長）からは、これまで国際的な研究が少なかった日本におけるジェンダーと災害の状況について、当研究所とのさらなる連携や、災害多発国である日本の災害研究にジェンダー視点を持ち込むことによる国際社会への貢献についての話がありました。

また、UCL訪問時にUCL出版より『Invisible Reconstruction』が出版されました。この本は、災害への備えと復興に関する現在の考え方を社会を形成することの基本的な役割と持続的な利益を理解するため、Lucia Cunnings 講師（UCL 歴史学部歴史学科）と北村特任研究員・助教、イタリアの研究者たちが行ってきた研究の成果でもあります。



UCL IRDR での会議



UCL のイルミネーション



UCL 出版から刊行された『Invisible Reconstruction』

文責：北村美和子（国際研究推進オフィス）
サッパシー・アナワット（津波工学研究分野）